

兵庫医科大学病院手術センターで手術を受ける患者様へ

術後疼痛管理チームとは

手術後の痛みを和らげることを目的として活動を行うチームです。当院では体制を整え、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士の多職種で構成された『術後疼痛管理チーム』による活動を2022年9月より開始しています。

海外ではAPS(Acute Pain Service)やAcute Pain Management Team(APMT)といわれるものです。

術後疼痛管理チームの活動

活動内容は、手術後に持続的な痛み止めの治療が必要と考えられる患者さんへの術後回診、痛みの強さや吐き気などの副作用の観察・聞き取り、鎮痛薬の調整・変更などです。

手術後の『痛み』や『吐き気』などが強い場合には、主治医や病棟看護師と連携して、『術後疼痛管理チーム』が対応させていただきます。

術後疼痛管理チームから皆様へ

チームのメンバーが術後回診でお伺いした際には、痛みの程度(強さ、部位、経過など)、痛み止めの効果、吐き気、眠気、呼吸が苦しくないかなど、必要に応じて、質問をさせていただきます。

患者さんの順調な手術後の回復のために、チームとして活動していきます。ご理解・ご協力のほど、宜しくお願い致します。

図. 術後疼痛管理の目的

術後疼痛
急性痛の軽減

※術後疼痛管理チームが主治医、病棟看護師と連携して、活動しています。

患者さんの満足度の
向上

早期離床・早期回復
在院日数の短縮

術後合併症の軽減
(呼吸器合併症、
肺血栓塞栓症など)

慢性痛への移行防止